

第4回千歳科学技術大学の公立大学法人化の検討に関する有識者会議  
議事録概要

1 日時 平成29年8月2日(水) 午前9時00分から午前12時00分まで

2 場所 千歳市役所2階 庁議室

3 出席者 委員9名  
(委員名簿)

職名等	氏名
【委員長】 前釧路公立大学 学長	小磯 修二
【副委員長】 地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 理事	尾谷 賢
【委員】 北海道経済産業局 地域経済部 地域経済課長	小貫 秀治
【委員】 北海道千歳高等学校 校長	増田 雅彦
【委員】 千葉崇晶税務会計事務所 公認会計士・税理士	千葉 崇晶
【委員】 千歳商工会議所 工業振興委員長	三ツ野 仁
【委員】 千歳工業クラブ 副代表幹事	大久保 亘
【委員】 千歳市町内会連合会 副会長	井上 英幸
【委員】 千歳市 副市長	横田 隆一

4 議題

- (1) 報告書のとりまとめに向けて
- (2) その他

5 委員からの意見の要旨

これまでの有識者会議での検討内容を再確認いただいた上で、各委員からの意見を募った結果は以下のとおり。

- 各大学の事情は各々異なるので、基本的には他大学の良い面は取り入れながらも、千歳市独自のまとめ方が必要ではないか。
- 独立行政法人を市が持つということは本当に必要な事務を設置するという大前提があるので、科技大のこれまでの様々な課題を克服する一つの手段が公立大学法人化であるというロジックではいけない。
- 大学からの要望を契機として千歳市が改めて大学の位置づけを考えているのであるから、まずは千歳市に対してメッセージを出して併せて大学にメッセージを出すという整理の仕方がよいのではないか。
- 卒業後どの分野に進んだとしても学んだことを活かして活躍できる人材を輩出するためには、よい指導者を集めなければならないのではないか。
- よい大学とは、そこでしか学べないことがある大学、そして、自分のやりたいことができる大学ではないか。学生はそういう観点から大学を選ぶのではないか。

- 具体的な方向性や取組が出て来ていない状況の中で有識者会議としてどのような判断を出せるのか。
- 公立大学法人化することによって、このようなことが可能であるというような提言のあり方でよいのではないか。
- 理数系情報系に関わらず幅広い色々な千歳市の問題を解決できる機会を創設するというをもっとアピールすべきではないか。
- 教員方には公立大学になったという気概をしっかりと持って経営をしていただかなければならないのではないか。
- 新しい大学を担う教員や事務局スタッフには、千歳市という地域に貢献することの意義を前向きに受け止める意識が必要である。
- 財務については、千歳市の全体的な財政運営において、他の施策に影響の無いように運営交付金を出していかなければならないのではないか。
- 地域貢献については、今までの範囲に収まることなく、千歳市の施策なり地方自治が抱える課題と貢献策をリンクさせる上で、地域連携センターの活用というのも有効なのではないか。
- 個別の財務シミュレーションは色々な前提条件があり、この会議でその可否を判断することはできないので、基本的な姿勢をメッセージとして示すのがよいのではないか。
- スマート化というのはコンセプトとしてはよいと思うし、これからの時代にマッチングしているのではないか。
- 市民が報告書を読んだ場合に、この会議では何を議論し、どのような経過の中で、この検討の結論に至ったかというところをわかりやすくする必要がある。
- ただ全国から優秀な学生だけを集めればよいということにはならない。地元の子どもたちが地元の大学に入れる流れもつくっていただきたい。
- 今後、千歳市としての大学の将来的なビジョンの具体化に向けて、大学と市が一体になった共同での検討を進めていくことが大事である。

－ 以上 －